

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3670200033
法人名	社会福祉法人 緑樹会
事業所名	グループホーム 安樹
所在地	徳島県鳴門市大麻町松字東山田57-10 (電話) 088-689-3788

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年7月28日

【情報提供票より】(平成20年 6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 6人, 非常勤 8人, 常勤換算 ユニット I 5人, ユニット II 5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	ユニット I 9,000円, ユニット II 15,000円	その他の経費(月額)	無	その他実費
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	月 40,000 円			

(4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.45 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	津保整形外科
---------	--------

徳島県 グループホーム安樹

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は大麻山の麓に位置し鳥のさえずりが聞こえ、周囲には神社や歴史館などがある。隣接する法人の医療機関との連携が密にあり、安心して繋がっている。職員はホームの理念の一つである「一日一笑」を心がけ、利用者一人ひとりのその人らしさを見出し、安心して豊かに過ごすことができるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は①理念の共有と日々の取り組み②家族への報告③運営に関する家族等意見の反映④現状に即した介護計画の見直しであった。4項目ともに改善され、日々のケアに活かされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者と管理者、職員は評価を実施する意義を理解しており全員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回(平成19年度は6回)開催し、利用者、家族、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、他事業所職員、事業所職員が参加している。事業所からは事業実施状況や次回開催までの事業予定などを報告し、参加者からは外出届け用紙記入の簡略化などについて提案が出されている。出された意見は十分検討しながら改善してサービスの向上に繋げている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や家族会の他、体調の変化時などにも来訪してもらい意見を聞いている。また意見箱の設置や苦情窓口の掲示もされている。出された意見等については十分検討し運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方たちとのふれあいを大切にして散歩時などの挨拶を欠かさないようにしている。事業所からは地元の祭りや小学校の運動会に参加し、地域からは敬老の日に小学校からの来訪などがある。また運営推進会議や催し物をとおして地域との交流が深まり、災害時の協力も依頼している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人は「地域に開かれた施設」を共通理念としている。グループホームでは平成18年度末に「利用者に自由を提供する。良質な環境を提供する。一日一笑 笑顔の絶えない時間を提供する。」といった独自の理念を全職員で作成し、ホームの玄関や事務所に掲示するなどして実践に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人及びグループホームの理念を朝礼時に職員間で唱和したり、会議などでの話し合いをとおして共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方たちとのふれあいを大切にして散歩時などの挨拶を欠かさないようにしている。事業所からは地元の祭りや小学校の運動会に参加し、地域からは敬老の日に小学校からの来訪などがある。また運営推進会議や催し物をとおして地域との交流が深まり、災害時の協力も依頼している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者、職員は評価を実施する意義を理解しており全員で取り組んでいる。前回評価の結果を活かし、面会者に対して職員を紹介するなどの改善を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回(平成19年度は6回)開催し、利用者、家族、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、他事業所職員、事業所職員が参加している。事業所からは事業実施状況や次回開催までの事業予定などを報告し、参加者からは外出届け用紙記入の簡略化などについて提案が出されている。出された意見は十分検討しながら改善してサービスの向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鳴門市から介護相談員を月2回受け入れている。また年2回、市の職員を交えて相談結果の報告会を開催し、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、担当職員がメッセージカードを作成し、利用者の状況や職員の異動などの報告を家族に郵送している。また体調の変化時などの必要時には電話で随時連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の他、体調の変化時などにも来訪してもらい意見を聞いている。また意見箱の設置や苦情窓口の掲示もされている。出された意見等については十分検討し運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職等の際には十分な引継ぎを行い、利用者への影響が出ないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画は法人内で立てられており、毎月1回参加している。また研修は全職員が受講できるように同じ内容で3回実施され、職員の知識・技術の向上につながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修や県外施設での現場研修を行っている。また近隣のグループホームとお互いの運営推進会議に参加し合っており、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談して自宅への一時帰宅・宿泊などを行いながら、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除方法について利用者の経験を活かしたアドバイスをもらうなど、ともに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には自宅での生活状況や生活歴を詳しく聞き、入居後も家族との連絡を密にして利用者の情報等を把握し、意向にそった支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、本人や家族、職員などの意見を基に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月毎に見直している。また利用者の状態に変化が生じたとき等には状況に応じて見直されている。見直された計画は本人、家族等に説明して同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する関連法人の医療機関との連携が密にあり、安心して繋がっている。また利用者の希望や家族の要望などに応じて、受診時や外出希望時などに付き添うなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族などの希望を聞き、納得が得られたかかりつけ医による適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族などの意向をもとにかかりつけ医等と話し合い、全員で方針を共有している。希望があれば終末期ケアを受け入れる体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報やプライバシーの保護についての研修を行っている。職員は利用者に対し丁寧に配慮した言葉かけを行っている。また個人情報は保管場所をきめて管理するなど取扱いを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	調理や小物作りに参加したい方、静かに過ごしたい方など一人ひとりの希望にそった過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや力を活かしながら、職員と一緒に準備や片付けをしている。食材の買い物にも同行してもらっている。また時々座る場所を移動して雰囲気を変えるなど、食事を楽しめるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングに合わせて入浴できるよう支援している。午後に受診する予定がある方には、午前中に入浴を勧めるような取り組みもしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩などを希望される方には付き添い、また家事やカレンダー作りなどの趣味活動を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそって散歩や買い物、食事会などに出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の動きに十分配慮し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行っている。また緊急時に対応できるよう連絡網が整っている。地域へも協力依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握し、それを基に法人の管理栄養士から助言を得ながら、一人ひとりの状態や摂取能力に合わせて支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計やカレンダーは見やすい位置にあり、ゆったりとくつろげるようソファが置かれている。また食事や作業用の机・椅子は使いやすいように配置され、くつろげる空間づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人・家族と相談し、使い慣れた家具や思い出の品物等が持ちこまれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		